

# 気 質 ・ 個 性

七木田 方 美

みなさんは自分と同じ背格好と顔や声を持った人と出会ったことがありますか。おそらく両親の若いころにそっくりだったり、兄弟姉妹がそっくりだったりという人は多いでしょう。しかし、どんなに似たところが多くとも自分と全く同じという人はいません。たとえ一卵性双生児であっても、指紋も性格も異なります。このように、いま、地球上に60億の人間が生活していますが、見た目も性格も二人として同じ人はおらず、それぞれに個性があります。これは生まれたばかりの乳児がどんな大人になるかは、DNA（遺伝子構造）と子どもが育つ状況や環境で決まるからです。

DNA（遺伝子構造）によって決められるのが「気質」です。この気質は一生変わることも、変えることもできません。この「気質」は、大きく次のタイプに分類されています。

- ①扱いやすい子 (easy child)：いつも活発で気性はやや激しいが、新しい環境や人に簡単に適応できる。イライラするような状況に置かれたときも不安は少ない。親や保育者などの養育者は、この子はいつもハッピーだと感じます。
- ②気むずかしい子 (difficult child)：乳児期はせわしく騒がしく、幼児期はかんしゃくを起こしやすく気難しい。新しい状況に適応するのを嫌がるため、親や保護者などの養育者は頑固で癪癖をおこしやすく育てにくいと感じます。
- ③時間のかかる子 (slow to warm-up child)：ネガティブな気分を持っていることが多く、新しい状況と人には躊躇して恥ずかしがる傾

向があり、ゆっくりと適応していきます。不安なときは、爪かみ、夜泣きなどの身体症状が出やすく母子分離にも時間がかかります。しかし、時間がたてば新しい環境を受け入れます。親や保育者などの養育者は、焦らずに待つことが大切です。

## ④その他

「個性」は、生まれてから様々な状況や人に出会いながらDNA由来の「気質」を基盤に培っていきます。「個性」には大きく2つの側面があります。一つは「自分はどのように見られているか」という側面、もう一つは「自分はどのように見られたいか」という側面です。私たちは、さまざまな状況と人のかかわりの中で、この個性を創り磨きあげてきました。

さて、「気質」は遺伝的要因のため、親のどちらかが子と同じような気質を持っているはずですが、似た者同士の子育てでは息が詰まることが多かったり、悩んだりすることもあり、親はわが子のイライラをまるで自分のことのように感じ取ってしまうのも理解できます。保育者は親とは異なる気質と個性をもった大切な人的環境です。保育者は子どもの個性を豊かにする可能性を秘めている大切な存在として、自分自身の個性がさらに素敵なものになるよう磨き続けようではありませんか。

## 〈引用・参考文献〉

- デズモンドモリス（日高敏隆・今福道夫訳）『赤ちゃんの心と体図鑑』 終風舎, 2011.
- 田原卓浩『乳幼児を見る一拠に基づく育児支援』 中山書店, 2015.